

from

ほうかつ

令和5年8月発行

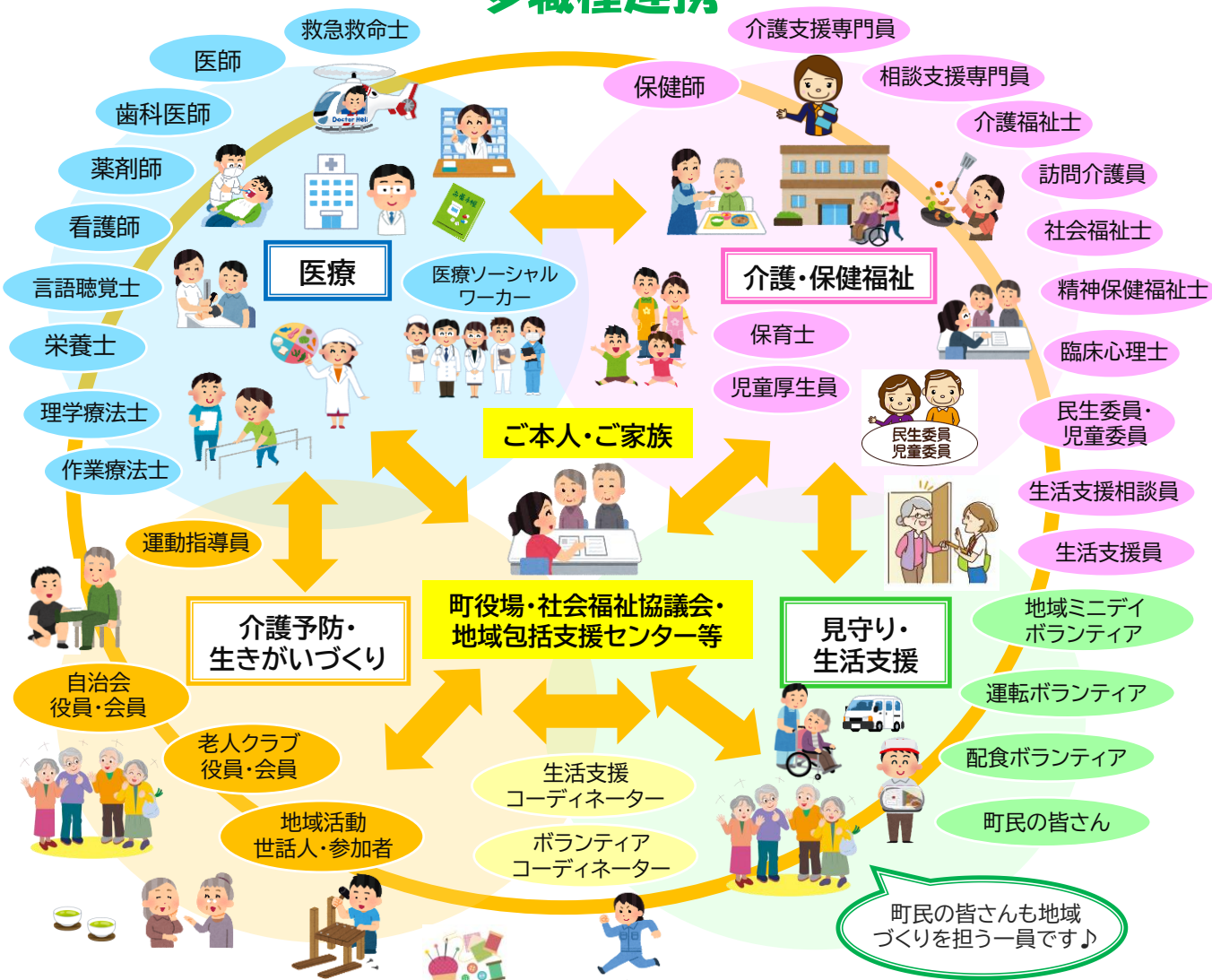
檜葉版

職域を超えたチームワーク！

地域包括ケアシステムにおける多職種連携の今

檜葉町では「みんなで支え合い 幸せを実感できるまち」を基本理念とした「第4次檜葉町地域福祉計画」を策定しており、「全世代対応型地域包括ケアの実践」が重点施策の一つになっています。これは、誰もが健康で生き生きと暮らすために「医療・介護サービス」「地域参加を通じた介護予防や生きがいづくり」「見守り・生活支援体制」といった支援が町全体で包括的に提供されること（地域包括ケアシステム）を目指すものであり、その実現に向けて様々な職種が協力し合う「多職種連携」が注目されています。今回は、檜葉町で進む多職種連携の今をご紹介します！

こんなにある！檜葉町の社会資源を活かした多職種連携



多職種連携とは“支援のすき間”をなくすこと

多職種連携とは、様々な職種が協力して連携することを言い、専門機関だけでなく、もちろん町民の皆さんもチームの一員です。

多職種連携の強みは、私たちの暮らしの身近にある医療・介護・福祉等の分野において“支援のすき間”をなくすことにあります。それぞれが持つ専門性や強みを活かし、連携することにより、ひとりひとりに合った支援を組み立て、“支援のすき間”をカバーし、町民の皆さんのよりよい暮らし（＝檜葉町ならではの地域包括ケアシステム）が実現されることを目指しています。

事例のご紹介～こんなときに多職種連携が活躍します！



【事例】

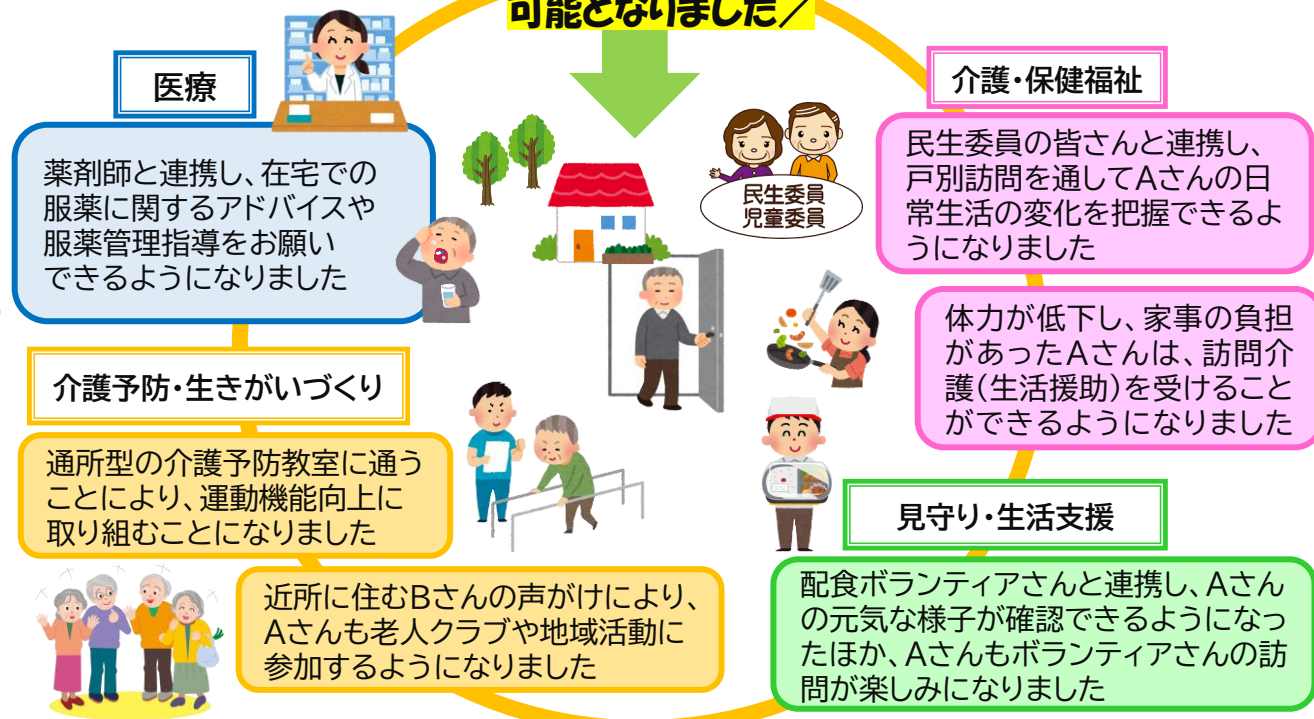
Aさん(85歳・独居男性)。脳梗塞で入院していましたが、治療とリハビリが終了し、間もなく自宅に戻れることになりました。長期入院による体力低下や、服薬管理、身の回りの家事を自分で行えるかがAさんにとって気がかりです。地域とのつながり・生きがいづくりで何か始めたいとも思っています。

相談



地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のケアマネジャー等がお話を伺い、多職種と連携して退院後の在宅生活に必要なサービスの提案・支援を行います

このような多職種連携が可能となりました！



多職種がチームとなって連携することにより、Aさんのニーズ（運動機能向上、服薬管理、食事等）に合った重層的な支援が可能となりました。このように、檜葉町では多職種連携による支援が進みつつあります。今後も、多職種連携の取組をご紹介します！

高齢者・障がい者の総合相談窓口

TEL:0240-25-4155 FAX:0240-25-4156
〒979-0604檜葉町大字北田字鐘突堂5-5（檜葉町保健福祉会館3F）
Email: naraha-houkatsu@car.ocn.ne.jp

お気軽にご相談ください。



地域づくりの
今!

みんなで関わる地域づくりを目指して

～ 地域の声に耳を傾けたら、こんな活動が生まれました～



生活支援コーディネーター
小林

檜葉町が掲げる“みんなで支え合い 幸せを実感できるまち”の実現に向けて、私も地域づくりを担う一員として活動しています。今回は、生活支援コーディネーターの活動のなかで感じたことや地域でのエピソードをご紹介します、これからの地域づくりを皆さんと一緒に考えたいと思います。

生活支援コーディネーターの役割とは・・・?

- 参加する** (地域活動におじゃまして顔の見える関係を築きます)
- 発見する** (地域課題を把握したり、社会資源を発掘し、町の状況を把握します)
- 協議する** (地域課題の解決に向けて、町民の皆さんや関係機関と話し合います)
- つなぐ** (町民の皆さんと社会資源をつなぎ、地域活動の活性化を目指します)
- 一緒に考える** (地域の声に耳を傾け、町民の皆さんと一緒に地域づくりを考えます)

とある地域で聞こえてきた声・・・

地域ミニデイは地域のみんなが集まる場所。せっかくだから、介護のことや暮らしに役立つ話をみんなで聞きたいね。



多職種と連携した「出前講座」を開催!

地域ミニデイでは、地域の皆さんのご要望を受け、多職種と連携して様々な出前講座を行っています。今年度上半期は、社協職員による介護予防体操指導、ふたば医療センター附属病院やならは薬局による出前講座、地域包括支援センターによる認知症サポーター養成講座を開催したほか、下半期も様々な講座を予定しています。

最近、地域活動がマンネリ化してきたな。生活支援コーディネーターはどんな相談に乗ってくれるんだろう・・・



地域活動の伴走役として どこへでもおじゃまします!

生活支援コーディネーターは、地域の皆さんの思いやお困りごとに耳を傾ける“地域活動の伴走役”です。例えば、活動のマンネリ化や充実化に関するご相談をいただいた際には、他地区の事例を交えながら参加者の皆さんと「どんな活動をしたいか」を話し合ったり、活動のルール決めや合意形成を図る場面に一緒に参加するなど、皆さんの身近な伴走役となっています。

こんなエピソードもありました!

とある地域ミニデイで「小林さんがいなくてもミニデイは大丈夫。心配しないで」と言われたことがありました。これは、震災後の新しいつながりづくりが必要とされてきた地域での出来事で、ミニデイの開催を重ねるにつれ参加者同士の顔の見える関係が構築され、お互いに協力してミニデイを運営できているのだと感じました。「これからも顔を見せてね」と言われたのも嬉しかったです。今後も皆さんと一緒に地域づくりを楽しみたいと思います!

みんなで協力して
できるから
大丈夫!



fromほうかつ ころむ

生活支援コーディネーター
小林 紀子



「誰かの靴を履く」という視点



以前、読んだ本(※)のなかに、意見や関心の合わない相手であっても、その人の感情や経験などを理解しようとする事は「誰かの靴を履いてみる」という面白い表現があります。これは、英国に暮らす主人公(著者の息子)が“人種も貧富の差もごちゃまぜの元底辺中学校”に通っていた時のエピソードで、考え方も信条も異なり、多様性にあふれるクラスメイトとの生活のなかで、相手を理解するうえで感じたことなのだそう。

この本は数年前に話題となり、「相手への共感力(エンパシー)」が注目されました。履きなれた自分の靴とは異なり、他者の靴はサイズもフィット感も違って、どこか履き心地が悪いと感じることがあります。ですが、意見の合わない場面に会った時には、自分の視点をちょっとずらして“相手の靴を履く”ようなイメージで、相手への共感力を持つことが大切かもしれません。



(※) ブレイディみかこ著『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

～ みんなのつぶやき ～



センター長 磐城

猛暑の休日。。。
出かけた場所は迷わず海!
ではなくて映画館



涼しい場所
求めて

主任介護支援専門員
兼認知症地域支援推進員 江尻

「とうもろこし」にはユニークな名称の品種がたくさんあるのですが、私の押しは“甘々娘”(かんかんむすめ)です。食べてみたいのは“あまえん坊”です。



社会福祉士 渡邊

～渡邊の菜園日記～

トマトに虫喰い穴ができてしまいました。連日、虫と闘っていますが、何か上手に共生できる手立てはありますか?



素朴な疑問コーナー

- Q. 町民も、多職種連携チームの一員なの?
- A. 檜葉町の地域づくりには、皆さんの力が欠かせません。ご近所のつながり、気に掛け合い、支え合いは、専門職では担えない、地域の皆さんの大きな“強み”なのです。